

製品名: TTK (リン酸化 Thr676) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05593**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	TTK
別名	TTK; MPS1; MPS1L1; Dual specificity protein kinase TTK; Phosphotyrosine picked threonine-protein kinase; PYT
遺伝子 ID	7272.0
SwissProt ID	P33981
免疫原	抗血清は、Thr676 のリン酸化部位周辺のヒト TTK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 642-691

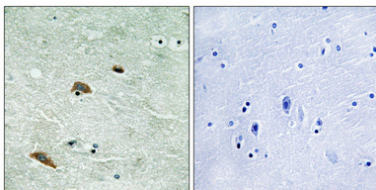
背景

TTKタンパク質キナーゼ(TTK) ホモサピエンス この遺伝子は、チロシン、セリン、スレオニンをリン酸化できる二重特異性タンパク質キナーゼをコードしています。細胞増殖に関連して、このタンパク質は有糸分裂中のセントロメアでの染色体の整列に必須であり、セントロソームの複製に必要です。有糸分裂中の染色体の正確な分配に重要な有糸分裂チェックポイントタンパク質であることがわかっています。このタンパク質が分解されずに過剰なセントロソームが生成され、異常な有糸分裂紡錘体が生じると、腫瘍形成が起こる可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2009年11月]触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: タンパク質のセリン、スレオニン、チロシンをリン酸化します。細胞増殖に関連していると考えられます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。組織特異性: 急速に増殖する細胞株に存在します。、

研究分野

細胞周期 G1S;細胞周期 G2M_DNA;

画像データ



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 に希釈し (4°Cで一晩)、抗原賦活化には高温高压トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。